

移入種ガビチョウの福島市小鳥の森周辺における 生息状況と懸念される問題

鈴木 弘之

(財) 日本野鳥の会 サンクチュアリ室

1. ガビチョウとは

ガビチョウ *Garrulax canorus* (図1) は中国南部, 台湾, インドシナ半島などに自然分布する体長が約22cm, 全身が茶褐色で白いアイリングが目立つスズメ目チメドリ科鳥類である。ヤブ環境に生息し, 地上採食性, 雑食性である (Mackinnon and Phillips 2000)。大きな声で複雑にさえずりをするため中国では飼養が盛んで国際的にも売買されている (Nash 1999)。日本でも古くから飼養鳥として輸入されてきていた。しかし, 近年, 飼育個体のかごぬけに由来すると思われる個体群が地域的ではあるが全国の森林環境に定着しており, 中国南部原産のチメドリ科という共通点を持つ移入鳥類4種の1種となっている (他はコジュケイ, ソウシチョウ, カオジロガビチョウ)。

2. 全国の分布状況

1980年代前半に九州北部において日本の野外で最初に観察され, その後周辺に分布を広げ (佐藤 2000), 2004年までには関東地方西部, 長野県の一部, 福島県東部に分布を拡大し (Kawakami and Yamaguchi 2004), さらに近年では茨城県北部 (日本野鳥の会茨城支部 2004), 宮城県南部 (角田, 丸森, 仙台市太白区) でも生息が確認されている。

福島県における初認は1995年11月に伊達郡川俣町山木屋であった。その後, 日本野鳥の会福島支部が2001年に実施した福島市から相馬にかけての2回の調査で全19メッシュ (20km/1辺) のうち, 17メッシュで合計118羽が確認され, 分布が広がっていることがわかった (日本野鳥の会福島支部 2004)。



図1. 福島市小鳥の森周辺で確認されたガビチョウ (2006年6月, 撮影: 高橋清)。

3. 福島市小鳥の森周辺における生息状況

福島市小鳥の森と周辺の16メッシュ（200m/1辺）を対象にして、2004年に6月と8月の2回生息個体数の調査と生息環境を調査した。この結果、それぞれ25羽、12羽が確認された（図2）。また、生息環境はメッシュの土地利用状況、植生を現況と地図より、雑木林、整地、霊園、畑、水田に区分し、メッシュ毎に優占度の高い環境と生息数の相関を調べた。この結果、ガビチョウは人為的に整地された霊園と雑木林が隣接する環境で生息数が多い傾向がみられ、舗装道路、人工建造物、ヤブが共通して存在していた（表1）。今回調査していない隣接メッシュでは人工的な整地環境がない雑木林にガビチョウは生息しておらず（鈴木 未発表）、林とこれに隣接した人為的に整地された場所を選好していると考えられる。移入鳥類は都市部や農耕地など人為影響で攪乱された場所に定着する傾向が強いことが報告されており（Case 1996）、本種も同様の傾向であった。

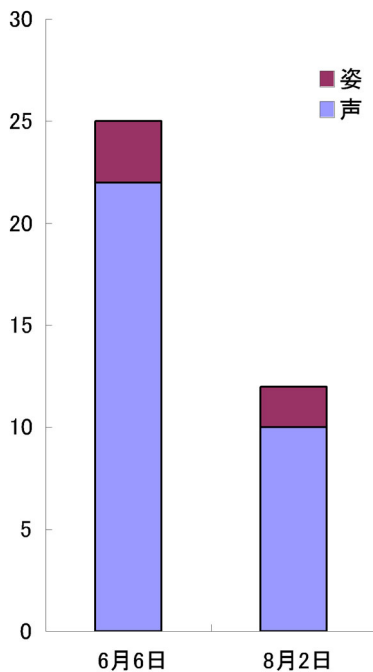


図2. 福島市小鳥の森周辺における2004年のガビチョウ個体数（鈴木 日本野鳥の会 福島支部（2004）より改訂）。

表1. 福島市小鳥の森周辺におけるメッシュ毎の環境および2004年のガビチョウ最大個体数（鈴木 日本野鳥の会 福島支部（2004）より改訂）。

メッシュ番号	環 境	最大個体数
24	霊園・雑木林	4
7	霊園・雑木林・水田	4
18	霊園・雑木林	3
25	水田・畑・沼	2
9	霊園・雑木林・水田	2
12	雑木林・霊園	2
16	雑木林・整地	2
23	霊園・雑木林	2
8	水田・畑・雑木林	1
30	水田・畑・雑木林	1
14	雑木林・水田	1
19	雑木林・水田	1
6	雑木林・霊園	1
11	雑木林・整地（清掃工場）	1
13	霊園・整地・水田	1
21	雑木林・整地	0

4. 分布拡大の要因 ～なぜ、近年これだけ拡大したのか？～

分布拡大の要因としてはいくつか指摘がされている。一つは原産地と日本における分布を拡大している地域が類似の気候と森林環境を持っていること、里山の手入れがされなくなったことと林業の不振によりヤブ環境が増加していること、ヤブ環境は捕食者が少ないことなどである(川上 2004)。今回小鳥の森周辺においてガビチョウが多く観察された霊園周辺は、もともと共有林、薪炭林として使われていたコナラを主とする雑木林であった。このような場所では、霊園や宅地の造成などのために森林伐採が行われたことにより林縁周辺部が延長され、結果としてヤブ環境が増加し、ガビチョウの生息に好都合な環境が増えた結果、個体数の増加と分布の拡大を引き起こしていると考えられる。

5. 懸念される問題

海外においては、ハワイ諸島で移入種として定着し、在来鳥類の個体群密度に悪影響を与えていることが報告されている(川上 2003)。しかし、日本ではガビチョウの増加により在来鳥類が減少したという報告はされていない。在来種はガビチョウの影響以上に生息環境の破壊そのものや他の環境悪化、改変の影響が大きいと考えられ、影響が顕在化しにくいと考えられる。

これらの状況をふまえて、福島市小鳥の森周辺に限定して言及すれば、影響が心配されるのは次の3点である。①競合：生息環境が雑木林とヤブが連続した環境のためウグイス、ホオジロ、サンコウチョウ、クロツグミ、ツグミ、シロハラ、アオジ、クロジ、シジュウカラなどと空間としての環境の競合が考えられる。また、食物資源の点からは、採食行動が地上性で地表性昆虫だけでなく植物種子を採食するため(山口 2000)、ウグイス、ホオジロ、ツグミ、シロハラ、アオジ、クロジ、シジュウカラと競合が考えられる。②繁殖阻害、攪乱(鳴き声の大きさ。擬声による)：本種は声が大きく、近隣で鳴いている他種のさえずりをかき消すことがあること、ウグイスや、クロツグミ、サンコウチョウなどさまざまな鳥の鳴きまねをする(鈴木 未発表)。また、季節を問わずさえずるなど、他種の繁殖行動の攪乱を引き起こしている可能性がある。③病原の伝播：一般に外来鳥類による寄生虫症の発生は在来野鳥種に深刻な影響を与えると予想されている(Asakawa et al. 2002)。ガビチョウからはシラミバエ、マダニ、条虫、鉤頭虫、吸虫などが検出され、一部は東南アジアに生息する非在来種であった(吉野ほか 2003)。

6. 今後の課題

以上を踏まえ、特に懸念される問題に対して生態学的見地から次の2つの調査研究と2つの提言が望まれる。

調査研究：

①競合および繁殖阻害、攪乱についてはこれまでほとんど調査されていない。食物資源をめぐる競争の直接的な影響を明確に把握、評価することは難しいが、生息環境と食物資源の点からの調査が望まれる。

②分布拡大のモニタリング：本種は最深積雪深20cmで生息域の境界となっておりと考えられており（川上 2004）ヤブ環境の増加と温暖化による積雪の減少により東北（太平洋側）で今後はますます増えるかもしれない。特に降雪量の少ない福島県浜通り、宮城県東南部や茨城県全域など分布拡大が予想され生息状況の把握が望まれる。

提言：

- ①積雪の少ない地域における里山および植林地の手入れ。
- ②自然林等の森林を伐採して生じる人為的な攪乱環境を最小限にすること。

引用文献

- Asakawa M, Nakamura S, Brazil MA (2002) An overview of infectious and parasitic diseases in relation to the conservation biology of the Japanese avifauna. *Yamashina Inst Ornithol* 34 : 200-221.
- Case TJ (1996) Invasion resistance, species build-up and community collapse in metapopulation models with interspecies competition. *Biol J Linne Soc* 42: 239-266
- 川上和人 (2003) 外来種を考える(1)「ガビチョウ、倭国の空を舞う」. *やましな鳥研 NEWS* (173): 2.
- 川上和人 (2004) 三つの限界：移入種ガビチョウの挑戦. *森林科学* 42 : 82-85.
- Kawakami K, Yamaguchi Y (2004) The spread of the introduced Melodious Laughing Thrush *Garrulax canorus* in Japan. *Ornithol Sci* 3 : 13-21.
- Mackinnon J, Phillips K (2000) *A Field Guide to the Birds of China*. Oxford University Press, New York.
- Nash S (1999) *Sold for a Song*. Bird Watching Society of Japan, Tokyo.
- 日本野鳥の会茨城支部 (2004) ひばり. *日本野鳥の会茨城支部報* (261): 4-6.
- 日本野鳥の会福島支部 (2004) きびたき. *日本野鳥の会福島支部報* (163): 3-5.
- 佐藤重穂 (2000) 九州北部におけるガビチョウ *Garrulax canorus* の野生化. *日本鳥学会誌*48: 233-235.
- 山口喜盛 (2000) 神奈川県におけるガビチョウの野生化について. *BINOS* 7: 43-50.
- 吉野智生・川上和人・佐々木均・宮本健司・浅川満彦 (2003) 日本における外来鳥類ガビチョウ *Garrulax canorus* の野生化およびソウシチョウ *Leiothrix lutea* (スズメ目：チメドリ科)の寄生虫学的調査. *日本鳥学会誌*52(1): 39-42.